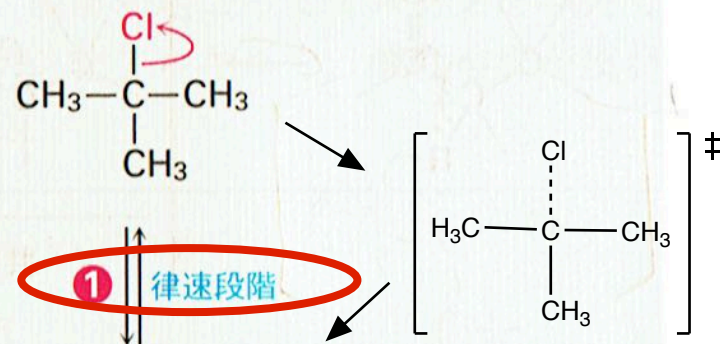
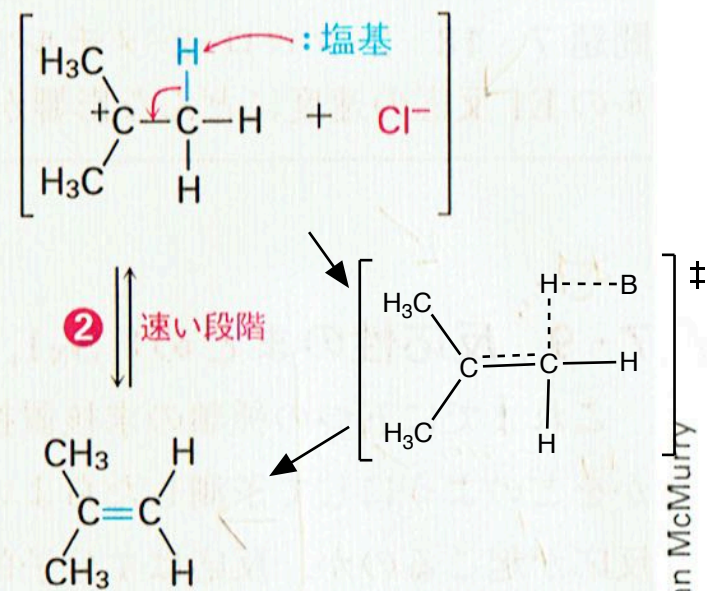


- ① 第三級塩化アルキルの自発的な解離が、遅い律速段階で中間体のカルボカチオンを与える



カルボカチオン

- ② 速い段階で隣の  $\text{H}^+$  がとれて中性のアルケン生成物を与える.  $\text{C}-\text{H}$  結合の電子対がアルケンの  $\pi$  結合を形成する



© John McMurry

図 7・8 反応機構: E1 反応の機構. 二つの段階が含まれ, カルボカチオン中間体が存在する.